

<議案第 2 号>

資料 2

今治市地域公共交通計画の評価等結果（令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月）

	目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
①	地域公共交通全体の満足度 不満割合50%未満	需要に応じた交通サービスの維持・効率化を行う。	アンケート	鉄道42％ 航路42％ 路線バス51％	鉄道、航路については目標を達成できていたが、路線バスについては目標値まであと一歩。 引き続き交通空白地域の解消に努めるとともに、ニーズの把握・分析を行い、利便性向上を図る。	
	航路・路線バス等の運行収支率の向上 R1より向上 航路：29.8％(離島航路運営費等補助) 航路：60.2％(上記以外) バス：50.7％(地域間幹線系統補助路線) バス：31.2％(上記以外)			航路：24.6％(離島航路運営費等補助) 航路：45.0％(上記以外) バス：35.8％(地域間幹線系統補助路線) バス：26.4％(上記以外)	運行収支率は全数値で前年より改善は見られたものの目標未達。利用促進を図り、少しでも収支率の向上を目指す。 また、公的負担額については費用対効果を考慮しつつ、効率的な交通ネットワークへの見直しを図る。	
	航路・路線バス等への公的負担額の抑制 R1より削減 航路：255.1百万円/年(離島航路運営費等補助) 航路：72.4百万円/年(上記以外) バス：118.4百万円/年(地域間幹線系統補助路線) バス：119.9百万円/年(上記以外)			航路：266.3百万円/年(離島航路運営費等補助) 航路：121.3百万円/年(上記以外) バス：107.7百万円/年(地域間幹線系統補助路線) バス：141.3百万円/年(上記以外)		
④	地域公共交通活性化協議会の開催 3回以上 /年	-	-	4回開催	できるだけ対面形式で開催し、今治市の交通について積極的な議論を図る。	
⑤	福祉輸送、スクールバス、施設送迎サービス等の活用 1件以上	移動手段が不足する層へ多様な移動サービスの提供を行う。	担当部署へ照会	福祉輸送 4件 スクールバス 22件 施設送迎サービス 2件	引き続き他分野のニーズを踏まえながらサービスの提供を行う。	
⑥	検討が必要となった地域での対話集会等の実施 ※対話集会：地域が自らの地域の交通について主体的に考えるもの 3回以上 /年	バス路線の維持が困難となり、路線廃止が予定されているエリアについて、移動手段確保のニーズを踏まえた上で、地域、交通事業者、行政が連携し、タクシーの活用やコミュニティ交通等、多用な交通モードによる地域の実情に沿った移動手段の導入可能性について検討する。	-	朝倉地域において乗合タクシーの運行方法の見直しに伴う意見交換会の開催(2回)や、バス路線廃止予定の菊間地域において地域住民と意見交換会(2回)を実施。	新地域での乗り合いタクシーの運行開始や既存交通のサービス向上・見直しに向けて、引き続き地域住民と一緒に考えていく。	
⑦	航路・路線バス・鉄道等の利用者数の向上 ※鉄道は四国旅客鉄道予讃線市内8駅における乗車人数 航路：120.1千人/年(離島航路運営費等補助) 航路：292.1千人/年(上記以外) バス：551.4千人/年(地域間幹線系統補助路線) バス：417.0千人/年(上記以外) 鉄道：1,190.2千人/年	新たな利用者の確保に向けて、ニーズに応じたタイムリーな情報・サービス提供を実施する。 また、利便性向上の取組を行う。	各事業者へ照会	航路：95.3千人/年(離島航路運営費等補助) 航路：194.1千人/年(上記以外) バス：280.5千人/年(地域間幹線系統補助路線) バス：332.1千人/年(上記以外) 鉄道：1048.3千人/年(R5年度) ※鉄道は四国旅客鉄道予讃線市内8駅における乗車人数	バス利用者は竜岡線、神子森線、今治小松線、出走線の廃線の影響により大幅に減少している。航路、鉄道は例年並み。どの交通モードもインバウンド需要をうまく取り込み利用者数の増加を図りたい。	
⑧	エリア、ニーズ別公共交通マップの作成・配布（陸地部用／島しょ部用 /観光用）	複数の交通モードを統合した公共交通マップを最新の情報にして作成する。	-	公共交通マップを最新の情報に更新し、各施設等に配布を行った。	必要なところに適切な数量を配置し、多くの方に利用してもらえるようにする。	
⑨	バリアフリーバス(ノンステップバス)の導入 20％以上	バリアフリーバスの導入を検討する。	バス事業者へ照会	13.6％(6台/44台) ※高速・特急線を除く一般路線に限る	今後、老朽化に伴う車両更新の際にはノンステップバスへの切り替えを図る。	
⑩	「今治駅（棧橋）～イオンモール今治新都市」シャトルバス利用者の向上(10%増/5年間) 50千人/年	都市拠点である今治新都市と今治駅を結ぶ二次交通として、利用促進を図る取り組みや周知活動を行う。	運行事業者へ照会	18.2千人/年 目標達成率36.4％(前年比▲35％)	シャトルバスの便数を計画策定時よりも減便していることに加え、R5年10月からイオンモール行の路線バスを運行開始し、シャトルバスを減便したため、シャトルバスの利用人数は大きく減少した。 引き続き利用状況や等を踏まえながら路線の見直しを行っていく。 ※参考 イオン線のR5.10～R6.9の輸送実績は49.2千人	18便(計画策定時) 11便(R5年) 5便(R6年)
⑪	バスの乗り方教室・出前講座の実施 2回以上 /年	バス事業者と連携してバスの乗り方教室を実施する。	-	【バスの乗り方教室】 令和6年10月29日 九和小学校 1年生13人 令和6年11月21日 吹揚小学校 5年生66人	早めに募集をかけたことにより、令和6年度は2校で実施することができた。 次年度も引き続き実施予定。	
⑫	運転手・船員の人材確保のための小・中学校での職場魅力発信事業実施 1回以上 /年	愛媛県と連携して公共交通の人材確保に向けた事業の推進に取り組む。	-	【出前講座】 令和7年3月10日「今治市地域公共交通計画(案)について」15人	今後は昨今の運転手不足に対応するため、高校生や社会人を対象とした魅力発信事業を検討していきたい。	
⑬	エコ通勤の協力団体・施設の増数 2団体以上 /年	市内企業にエコ通勤実施の協力依頼をする。	愛媛県へ照会	1団体（太陽石油株式会社 四国事業所）	市内の企業に声かけをし、エコ通勤に協力していただける団体を募集する。	